

言葉はあらゆる思考のもとになるものです。だから、言葉を数多く正確に使へる人は他のどんな特性を持つ人にも増して人生において成功する可能性が高いと思はれます。

しかし、本当にさう言へるでせうか。ここに一つの調査があります。アメリカの人間工学研究所のジョンソン・オコナー博士の実施したものです。オコナー博士は、中学生から一般社会人まで、四十万人のアメリカ人を対象に、言葉を理解する力と学生の成績や社会人の地位との相関関係を調べてみました。

すると、やはり言葉の理解力と成績、地位とは見事に正比例してゐることが判ったのです。中学生、高校生、大学生では、語彙ごいが豊富な学生ほど成績が上位でした。社会人の中では、最も豊富な語彙を持ってゐたのは大会社の幹部など社会的地位が高く、各方面で活躍してゐる人々でした。

この調査に関しては、1961年の「リーダーズ・ダイジェスト」7月号に「言葉の不思議な力」といふ標題で詳しく報告されてゐます。

人間は物事を考える時は必ず言葉を使ひます。言葉なしで物事を考えることは出来ません。ですから理解してゐる言葉の数が多ければ

多いほど物事を考へる幅はばが広く、また精密になっていくのはやはり当然の事と言へませう。

言葉を豊かに、また正確に使ふ人が各方面で成功するのも、故無ゆえいことではありません。

そして、豊かな言葉を身につける基本的な時期は幼児期です。この時期に言葉を豊富に身につけられなかった子供は、将来にわたってハンディキャップを背負うことになるのです。それでは子供が余計な苦勞をすることになりますから、出来る限り幼児期に周囲の人が正しく豊かに、そして出来れば美しい言葉で語りかけ、子供の語彙ごいを増してやることが望ましいのです。

言葉の中でも、漢字は視覚を使った“目で見える言葉”です。三章で詳しく説明しますが、漢字で行ふ言葉の教育には目覚ましい効果があります。漢字は非常に有効な言葉の教育手段です。これを利用して幼児に豊かな言語力を身につけさせれば、後は比較的楽に勉強が出来るやうになるでせう。いえ、勉強を楽しむことさへ出来るやうになるのです。人間には好奇心といふものがあるのですから、いろいろな不思議とびらの扉を開いてやる鍵かぎさへ与へれば、自分からどんどん扉を開かうとして行く

でせう。その鍵になるのが言葉や、漢字などの文字なのです。

人生といふ冒険の旅に子供を旅立たせる時には色々な用意が必要です。一体何を身につけさせて旅に出してやるべきでせうか。あれも身につけさせたい、これも持たせてやりたいといふのが親心です。しかし、さう何もかも持たせてやるわけにもいきません。せめて一番大事なものは豊かに持たせてやりたい。さう思った時に用意すべきものは何でせうか。困難に打勝つ強い心、他人に対するやさしさ、美しいものに感動する感受性、そして、世の中をより良く生き抜いて行く知恵、これらの子供の白紙の心に注ぎ込んで行くのは親の希望であり、また務めでもありませう。そして、この最後のもの、知恵を磨くのが言葉です。